

水稻

若狭米の品質向上をめざし 五月半ばの米づくり

育苗

育苗時期のハウス内は高温になりやすいため、**積極的に換気**してください。
かん水はできるだけ午前中に行い、天候によって**有無や量を加減**してください。

施肥

基肥一発施肥体系

品種名	肥料名	肥料成分N-P-K	湿田	乾田	砂質浅耕田
ハナエチゼン	早生用一発522	25 - 12 - 12	32～35	35～45	40
コシヒカリ	エココシ	21 - 4 - 4	25～30	30～35	35
あきさかり	中晩生一発522	25 - 12 - 12	32～35	35～45	40～45

※側条施肥田植機で施肥する場合、肥料により比重が異なりますので、設定開度を必ず調整して下さい。
(機種により異なるので、農機センター・メーカーに確認下さい)

食味向上栽培管理のポイント (目標値 コシヒカリ5.5%～6.5%)

(1) 玄米タンパク値が高い(6.8%以上) 場合

◆ 施肥量の低減 (特に地力の高い圃場)

従来の施肥量から窒素成分量で10㍏当たり1～2㍏減らす (特に穂肥分)

ただし、この場合に以下の点を必ず確認し、タンパク低下の改善が見られない場合は再度施肥量を検討する。また収量・品質が低下した場合は下記(土づくり)を検討する。

- 生育：出穂期～出穂後20日間の葉色が極端に淡くないか
- 収量：収量が低下していないか
- 品質：未熟粒、胴割粒の発生による検査等級低下がないか
- 食味：玄米タンパクが低下しているか

◆ 土づくり・・・ケイ酸質資材の施用、堆肥等有機物の施用

◆ 倒伏低減対策・・・倒伏軽減剤の使用

◆ 生育過剰の抑制・・・早めの中干

(2) 玄米タンパク値は低い(5.5%未満)が、未熟粒(基白粒、背白粒など)
胴割粒が多く検査等級落ちしている場合

- ◆ 施肥量の増加・・・従来の施肥量から窒素成分量で10 μ 当たり1～2 μ 増やす(特に穂肥分)
- ◆ 出穂期・・・・・・・・・・～出穂20日間のこまめな水管理
- ◆ 土づくり・・・・・・・・・・ケイ酸質資材の施用、堆肥等有機物の施用、深耕

農作業安全確認運動



令和4年までに農業機械作業に係る死亡者数を平成29年水準(211件)から半減することを目標に、令和2年からの3年間を集中対策期間として対策を強化しているところであり、春(3～5月)と秋(9～10月)に重点期間を設定して、農業機械作業の事故防止に向けた運動を展開します。



～重点推進テーマ～

「見直そう! 農業機械作業の安全対策」

農業機械作業による死亡事故が多発している状態が継続していることを踏まえ、昨年度に続き、特に死亡事故の発生割合が高い乗用型の農業機械の作業におけるシートベルト・ヘルメットの着用徹底など、農業機械作業の安全対策を見直す運動を全国的に展開します。